



## 「分析化学総説」および「博士論文要録」欄の新設に当たって

「分析化学」編集委員長

二瓶 好正

本誌「分析化学」は本年で創刊 43 年を迎え、会員総合誌として 24 年、論文誌として 18 年、邦文論文誌として 8 年の間継続して発行されてきた本会最長の歴史と伝統を有している。

本誌編集委員会は、一昨年以来長時間を費やして、邦文論文誌としての「分析化学」誌の発展のための方策を議論してきた。その結果、(1) 投稿論文の早期発行をめざして審査手続きを見直す、(2) 論文投稿の制限を緩和し、会員外投稿を認めると共に、総合論文を自由投稿とする、(3) 新しいカテゴリーの分析化学情報掲載欄を新設する、などの諸改革を行うこととした。(1)と(2)については平成 5 年 3 月よりすでに実施されているが、(3)については本号、すなわち第 43 巻第 1 号より掲載が開始されることとなった。以下にその主旨と考え方について述べて読者各位の便宜を図ると共にご支援をお願い申し上げる次第である。

まず、「分析化学総説」は、「ぶんせき」誌においてすでに継続的に掲載されている「進歩総説」とは異なり、適切に選択された主題について、関係の深い専門分野に属する本会会員ならびに他学協会会員の専門家を読者対象とする総説であり、頁数および文献引用の数と年代的制約を極力緩和して、歴史的観点をも含めてより自由に執筆していただくための欄である。したがって執筆の手引きには本欄の性格を次のように記述している。

「分析化学総説」は、ある分野の研究動向を、その歴史的背景と進展、現状と未解決問題、さらには将来への展望などについて、広範な文献検索に基づき、その評価の上になって総合的、体系的に論じたものをいう。本総説は編集委員会の依頼により執筆される。

「博士論文要録」は、分析化学および関連する分野において執筆され、学位（博士）が授与された博士論文の要旨を簡潔にまとめたものであり、学位取得者自身により執筆されたものである。本欄は、博士論文の内容を紹介することにより、読者ならびに社会に対し最新の研究動向に関する情報を提供すると共に、学位取得者の将来の研究活動の展開に際して役立つことを念願し企画されたものである。本欄は会員の推薦に基づき編集委員会の依頼により執筆される。

以上、二つの新しいカテゴリーの欄について概略説明した。いずれも、分析化学会会員ならびに「分析化学」誌の読者全般に対し、従来にない新しい分析化学情報を提供することを目ざしたものであり、今後しだいに発展させつつ定着させていただきたいと心より念願している。

読者各位におかれては、「分析化学」誌に掲載されている諸論文を活用していただくと共に、さらに各種論文の執筆者としての立場に立った学会・社会貢献にもぜひとも積極的にご協力いただきたく、お願い申し上げる次第である。